

鳥取西高近畿同窓会報

第14号

2021年11月1日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会
 発行責任者：窪田邦倫（西高45年）
 編集責任者：山内紀嗣（西高43年）



ご挨拶

鳥取県立鳥取西高等学校

校長 國岡 進

(西高五九年)



この春、鳥取西高等学校長に就任しました國岡と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

近畿同窓会の皆様には、日頃より本校教育に対し、ご支援、ご協力いただき、心から感謝を申し上げます。

コロナ禍による影響など、先を見通すことができない現状ですが、まず最初に、今年度の本校教育の重点目標を紹介いたします。

今年度の重点目標は『深い学び』『幅広い学び』を通じて新時代を創造するリーダーの育成を図る』として、具体的には、次の内容を目指しています。①学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究・実践する。②「大学進学重点校」として、生徒が高い進路目標に挑戦し、その目標を実現する。③スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を組織的に推進し、生徒の幅広い科学的素養を醸成すると共に、新時代の良識を醸成するリーダーを育成する。④生徒の良識を培うと共に、挨拶を含め生徒の社会性を高める。⑤部活動に積極的に参加し、上位大会を目指すと共に、スポー

ツ・文化芸術等各種大会・コンクールへも積極的に挑戦する。

従来どおり進学実績を更に伸ばしたいという思いは言うまでもありませんが、生徒がより様々な分野で活躍することを期待しています。

重点目標③の中でも触れていますが、本校は今年度、文部科学省のSSHに指定されました。平成二七年度から令和元年度まではスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、グローバル人材の育成に取り組んできましたが、今年度から令和七年度まではSSHの指定となります。SGH指定の時代には、多くの成果が挙げられ、本校生徒の大きな成長につながりましたが、SSHの指定においても、SGH以上の成果を挙げたいと考えております。

このような大きな事業に取り組んでいますが、一方で、本校も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けております。例えば研修旅行。本校の研修旅行は、従来は台湾に行くこととしていました。現在の三年生については何度か行く先を変更したり日程を延期しましたが、最終的には中止を決定しました。二年生については、研修先を県内に変更、一年生については研修先を沖縄とし、現在準備を進めているところです。



また、従来、全校で集まっていたような行事、例えば新入生歓迎行事、講演会や壮行会のような行事は講堂に集まることなく、オンラインを用いながらも工夫を凝らし、生徒は教室に居ながら、プロジェクターから映し出される映像を見て、実施しています。そのような中、本校関係者の新型コロナウイルス感染が判明し、九月六日、七日は臨時休業となりました。そのような中であっても、七日はGOOGLE WORKSPACEの機能を使い、オンライン授業を行いました。映像や課題配信を行うなど、各教員が工夫を凝らし、この日一日の授業を行ったところです。様々な制限はありますが、教員の知恵を合わせて、何とかこのコロナ禍を乗り越えていきたいと思っています。

最後になりましたが、本校は令和五年度に創立一五〇周年を迎えることとなります。今後、記念事業の実施に向け、様々な協力をお願いすることになると思います。近畿同窓会の皆様にも、引き続きご支援、ご協力をお願いし、簡単ですがご挨拶とさせていただきます。

お詫び

今年の四月にお送りいたしました会報13号につきまして、ページが入れ替わってしまいました。大変申し訳ありませんでした。お詫び申し上げます。

コロナ禍の オリンピック

窪田邦倫（西高四五年）

とんでもないコロナウイルスが一昨年十二月ごろ、中国・武漢で発生。感染者が各地で多発し、やがて世界を席卷しました。近畿同窓会もその影響を受け、総会は「安全・安心」を最優先し、二年続いて中止をさせていただきました。同窓会発足以来、なかったことで、おそらく将来にわたってないと思いますし、もう二度とあつてはならないことだと願っています。

こうした厳しい環境の中、今年の夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大で、史上初めて二年延期となった大会は、無観客や選手らの行動制限など、異例すくめの運営を余儀なくされましたが、世界中が注目する戦いも多く、コロナ禍で『自粛と制約』に疲れていた私たちに、たくさんの感動を届けてくれました。

「あがけ もがけ みがけ それが 未来を拓く」。この言葉は、あるアスリートに贈られた言葉です。競技の世界は皆が激しく争って頂点を目指します。その中にある



コキアの葉

って選手は、成果が出ないと他の選手に強い嫉妬をいだいたり、自分を卑下して、選んだ道だけでなく、自分の存在そのものが恨めしくなったりし、もの凄く苦しくなると聞きました。でも、あがきながら、もがきながらして自己の錬磨をするところからしか、未来は拓けません。

東京大会には、選手らが自分の描いた未来を信じて前に進んでいく姿がたくさんありました。笑顔で競技を楽しんでいる選手の姿もたくさんありました。「成果を出す選手は、大会中に成長する」と言われます。異例の大会は「失敗を恐れず一歩前に踏み出せば、必ず道は拓かれる」と、私たちに教えてくれたような気がします。そして、この思いを未来に向けての近畿同窓会活動に活かし、伝統とともに繋いでいきたいと思えます。

同窓会は、卒業後に様々な分野で長年活躍された方、現在も未来に向けて様々な活動が続けられている方などが一堂に会し、交流できる貴重な場だと思っています。コロナ禍で行動が制限される中、皆様からの投稿を掲載している会報も会員相互の貴重な情報源であり、交流の場です。そこで、皆さんにお願いです。

投稿は「近況」の枠にとられず、高校時代の思い出を振り返るもの、皆さんが関わっている趣味・サークルなどの魅力を紹介したり、参加を呼びかけたりするもの、最近思うこと（どんなテーマでも可）や、会へのご意見でも構いません。それぞれの内容に沿ったコーナーとして紹介いたしますの

で、自由にお書き下さい。懐かしい写真なども歓迎です。下記のメールアドレスをご利用ください。

皆さんに会えないことがこんなに寂しく、空漠とした感じになるとは、思いませんでした。来年にはこの気持ちを吹き飛ばし、楽しい総会が開けることを心から願っています。引き続き、皆さんのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。皆さんには体調維持にくれぐれも留意下さい。



琵琶湖一周

ウォーキングの挑戦

村江信幸（西高四三年）

昨年からの猛威を振るうコロナウイルス感染で今までの生活が一変し、いろいろな楽しみが取り上げられました。そのようななか、他の人に迷惑がからずコロナにも負けまいと、一人で琵琶湖一周ウォーキングに挑戦してみようと計画をたてました。

JR 大津駅から湖西→湖北→湖東→JR



賤ヶ岳から見た琵琶湖



近江八幡市の運河

大津駅までの一周約200km、週一日約15km、20kmのウォーキングで12日間一周する行程です。

一日の基本行程は、自宅のある奈良から始発電車に乗り、一日約15km、20km歩いて14時～15時には帰宅する、という密にはならない行程を心掛けました。12日間のウォーキングをするなかでは密にならないことを保ちながら多くの方と話ができましたが、なかでも20年ぶりと、また43年ぶりに友人に再会できたことが嬉しい出来事になりました。

結果、ウォーキングは215km、約35万歩も歩きましたが、疲れもなく満足感いっぱいウォーキングでした。



ガーベラの花

（事務局連絡先）

〒631-0803

奈良市山陵町二二六-一

サンプラザ二〇八

村江 信幸 宛

090-3465-7203